

Book Review Corner

ブックレビューコーナー



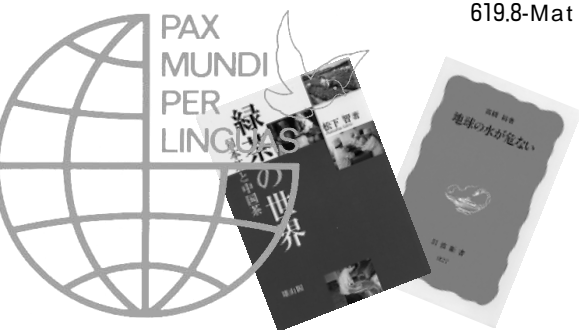
① 松下智 著

『緑茶の世界』

(雄山閣)

近年はカテキン等で、お茶が見直されています。また、ペットボトルの普及で、お茶がとても身近になってきています。本書は日本と中国のお茶の歴史、製法、喫茶習俗・文化などを解説しています。詳細に記述されているので気軽な読み物ではありませんが、お茶について調べる際の絶好の参考書になるでしょう。なお、お茶についての書物を調べるには「日本茶」、「中国茶」などのキーワードも使って検索してみてください。

619.8-Mat (T.F.)



② 高橋裕 著

『地球の水が危ない』

(岩波書店)

様々な環境破壊が問題となっていますが、河川や地下水などの水問題もその中の一つです。今日でも、水質汚染や大洪水など数多くのニュースを耳にします。水は人間にとって欠かせないものであり、水問題は世界規模の重大な問題です。

本書では、日本や世界の水の現状やそこで起こっている水問題などが解説されています。日本を取り巻く水環境や日本にはない国際河川などのことがよくわかり、お勧めする一冊です。

517-Tak (S.I.)

③ 秦恒平 著

『からだ言葉・こころ言葉』

(三省堂)

日本語には、からだの一部分やこころを使った言い回しが、実に多くあります。本書では、これらについて、からだ日本誌、こころ日本誌の各章でそれぞれ52語ずつの言葉について説明しています。

更には、古典にあらわれたものについても和歌・歌謡、俳諧・川柳を紹介しています。私たちが日常何気なく使っていた、これらの言葉がいかに多いのか、特に難しい言葉についてではありませんが、日本語についてなるほどと興味をもたせてくれる本です。

810.4-Hat (S.O.)



④ 佐竹謙一 著

『浮気な国王フェリペ四世の宮廷生活』

(岩波書店)

スペイン史において政治的に敏腕な国王といえばカルロス五世とその子フェリペ二世があげられますが、本書の主人公フェリペ四世は、統治能力においては、偉大な祖父フェリペ二世に比べるとないが、今日まで彼の名前が歴史に残っているのは、彼の飽くなき放埒な宮廷生活にありました。

本書では、フェリペ四世にまつわる巷間の噂話やエピソードなどを含めて、黄昏ゆく17世紀スペイン史であまり書かれなかった部分を余すことなく描いています。

289.36-Sat (H.T.)